



エダマメ (マメ科ダイズ属)

大豆を未熟のうち収穫するのがエダマメ。タンパク質、ビタミンA、Cを多く含み、ビールのおつまみとして夏の栄養補給に最適です。

「畑の準備」 種まき2週間前に1平方メートルあたり苦土石灰100gを散布し、よく耕しておきます。1週間前に化成肥料(NPK各成分で10%)100gと堆肥1~2kgを施し、よく混ぜ込んでおきます。その後、畝幅70~80cm、高さ5cm程度の栽培床(ベッド)を作り、黒色のマルチを張ります(図1)。

「種まき」 地温が15度以上になったら頃から種まきの適期で、一般地では遅霜の恐れがなくなる4月下旬~5月となり、6月以降では害虫の被害を受けやすくなります。条間45cm、株間30cm、1カ所に3~4粒まきます(図2)。

鳥害を防ぎ発芽を良くするために、不織布のベタ掛けが有効です。本葉

図1 ベッド作り

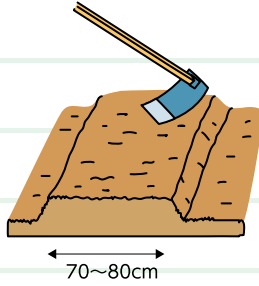
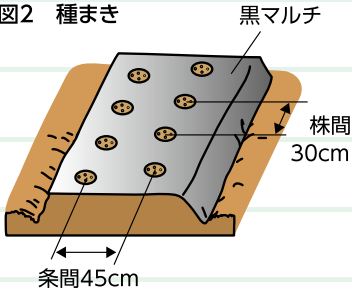
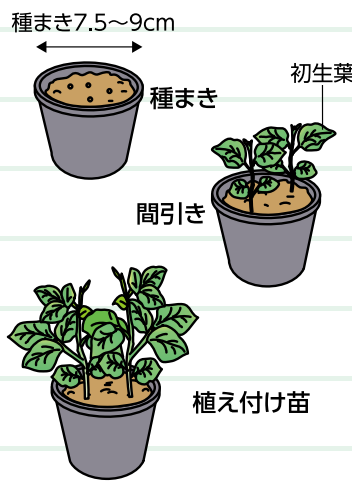


図2 種まき



2枚の頃、生育の劣る株をはさみで根元から切り取り、2本立ちにします。気温が低い時期や鳥害を避けるためには育苗する方法もあります。この場合、直径7.5~9cmのポットに3~4粒まき、初生葉がそろった頃に間引いて2本残し、本葉2枚頃まで育苗します(図3)。

図3 ポット育苗



「病害虫の防除」 高温期にはカメムシ類が発生し、さやに付くと落下します。開花期にスミチオン乳剤、トレボン乳剤などの登録農薬で防除します。

「収穫」 さやが膨らんで、指で押さえるとはじけるようになれば収穫期で、開花後から30~35日です。株ごと引き抜いて収穫します。収穫適期は3~5日と短いため、同じ品種なら時期をずらして2~3回に分けて種まきすると、長く収穫を楽しめます。
*関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しております。

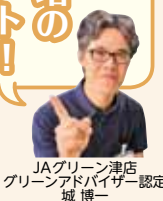
栽培計画 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

普通栽培				○		①						
遅どり栽培					○		①					

○ 種まき ① 収穫



JAグリーン津店が教える！
エダマメ栽培のポイント！



JAグリーン津店
グリーンアドバイザー認定
城博一

●肥料・種まき

マメ科の植物の根には、空気中の窒素を固定する根粒菌が共生していて、自ら栄養分を作り出します。そのため、窒素肥料を控えめにし、元肥を施したあとは基本的に追肥は施しません。

種まき直後は、カラスやハトが豆や芽を食べてしまうことが多いので、本葉が出るまで「不織布」などをベタ掛けておくことが安心です。

●摘心・開花

エダマメのさやが付くのは、節の部分、葉や根のつけ根です。そのため、枝数が増えれば節の数も増えて、収穫量が多くなります。枝数を増やすのに効果的なのが摘心。本葉5枚が展開する頃に頂芽をはさみか手で摘み取ります。

種をまいてから50~60日くらいで花が咲きます。エダマメの花は葉のつけ根に付きます。品種により白色やピンクなどがあります。花が咲き始めたら水切れと害虫に注意しましょう。花のあと、さやが付きます。

●カメムシ対策

エダマメは害虫による被害が多く、特にカメムシがよく付きます。さやが付いているのに実が大きくならないというトラブルが発生した場合の主な原因は、「カメムシ」による吸汁被害です。防虫ネットで覆って防ぎましょう！